『山頂部整備に関するアンケート』用リーフレット

1 「津久井城」をご存知ですか？

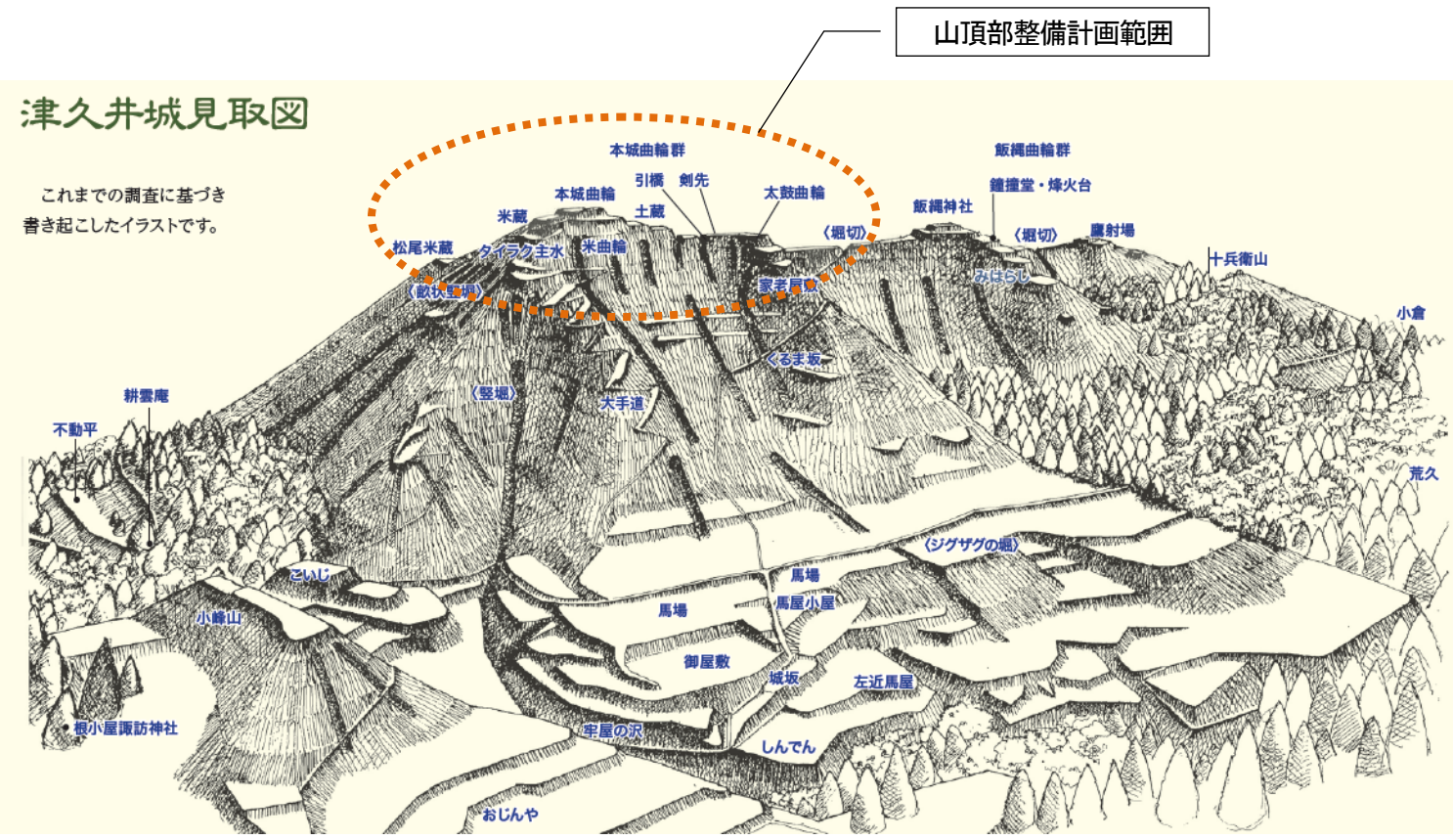
概 要

津久井湖城山公園の中央に位置する城山には、かつて「**津久井城**」と呼ばれるお城がありました。

「**津久井城**」は自然の地形を巧みに利用して築かれた山城です。竪堀（たてぼり）を掘ったり、曲輪（くるわ）等を築き、山全体を要塞化していました。

現在見られる遺構は、戦国時代のものと考えられています。

当時の津久井地域は、北条氏の勢力下にあり、津久井城は、武田氏との領国の境目を守り、また、地域統治の拠点として重要な役割を担っていました。



2 山頂部はこのようなところです

山頂部の標高は 375m、パークセンターとの高低差は約 200mあり、パークセンターから歩いて 30～40 分程かかります。

眺 望

木々の隙間から、八王子城や津久井湖、丹沢や小仏の山々、天気がよければ東京スカイツリーなどが望めます。しかし現在の山頂部一帯は樹木が茂り、見晴らしのきく場所は一部に限られています。

山城であった時代には、四方が見渡せ、敵を早く見つけることが非常に重要であったことから、樹木は少なく管理され、見晴らしは良かったと考えられています。

山梨方面の眺望例

遺構の状況

山城だった時代は、いざ戦いとなったときの防御の拠点であり、城として大変重要な部分です。周囲の尾根を含め何段にも連続する小曲輪や虎口（こぐち）が築かれ、とても堅固な作りとなっています。

2009 年から行われた発掘調査では、

・礎石（門の基礎）　・石敷きの通路　・石積み　・土蔵の跡と考えられる遺構

など様々な遺構が発見され、それらはそのまま埋め戻して保存してあります。

遺構は地表から浅い位置にあるため、一部はむき出しになったり、木の根の影響を受けたりするなど、保全上の問題が生じています。

米曲輪内の石敷き通路

自然の状況

城山の山頂から中腹にかけては、コナラやケヤキなどの落葉広葉樹を中心とした森が広がり、公園に季節の彩りを与え、生きもののすみかにもなっています。

しかし、成長しすぎていることから、倒木の危険や眺望の妨げ、遺構への悪影響など、たくさんの課題も抱えています。

本城曲輪内の門の礎石（推定）

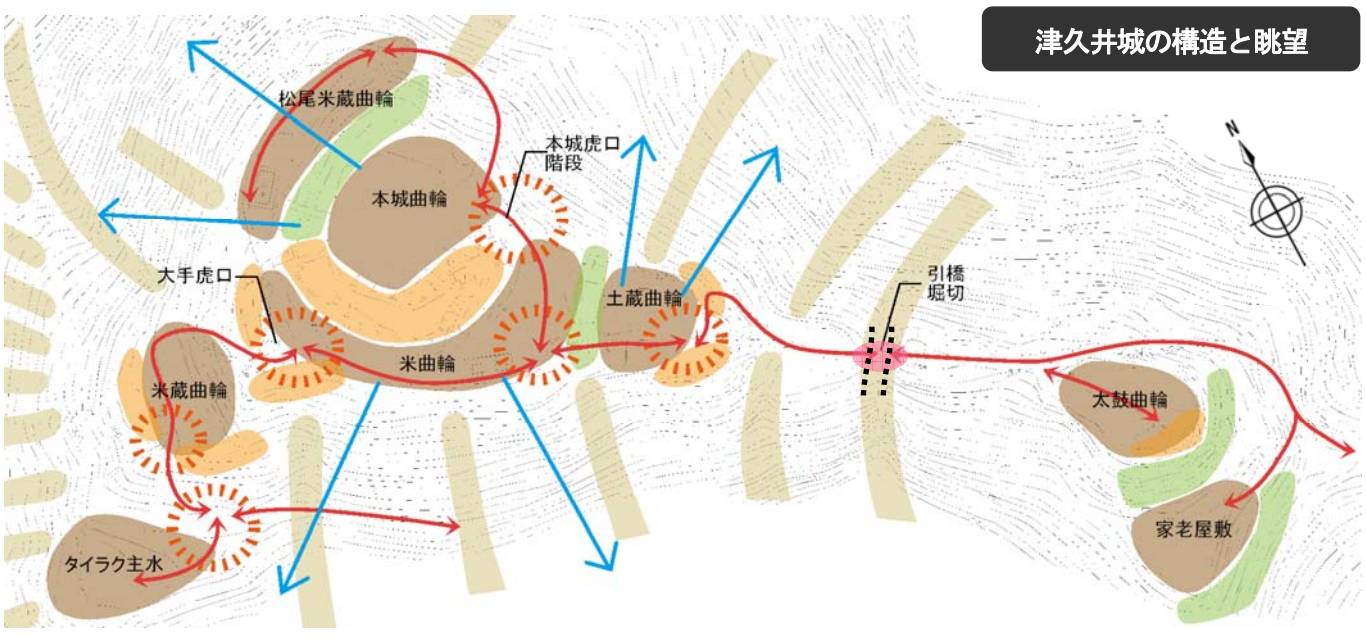
施 設

トイレやベンチ、標識類がありますが、今回計画しているような津久井城の遺構を復元的に整備した施設はありません。

3 山頂部整備計画（案）を紹介します

山頂部整備の方向性

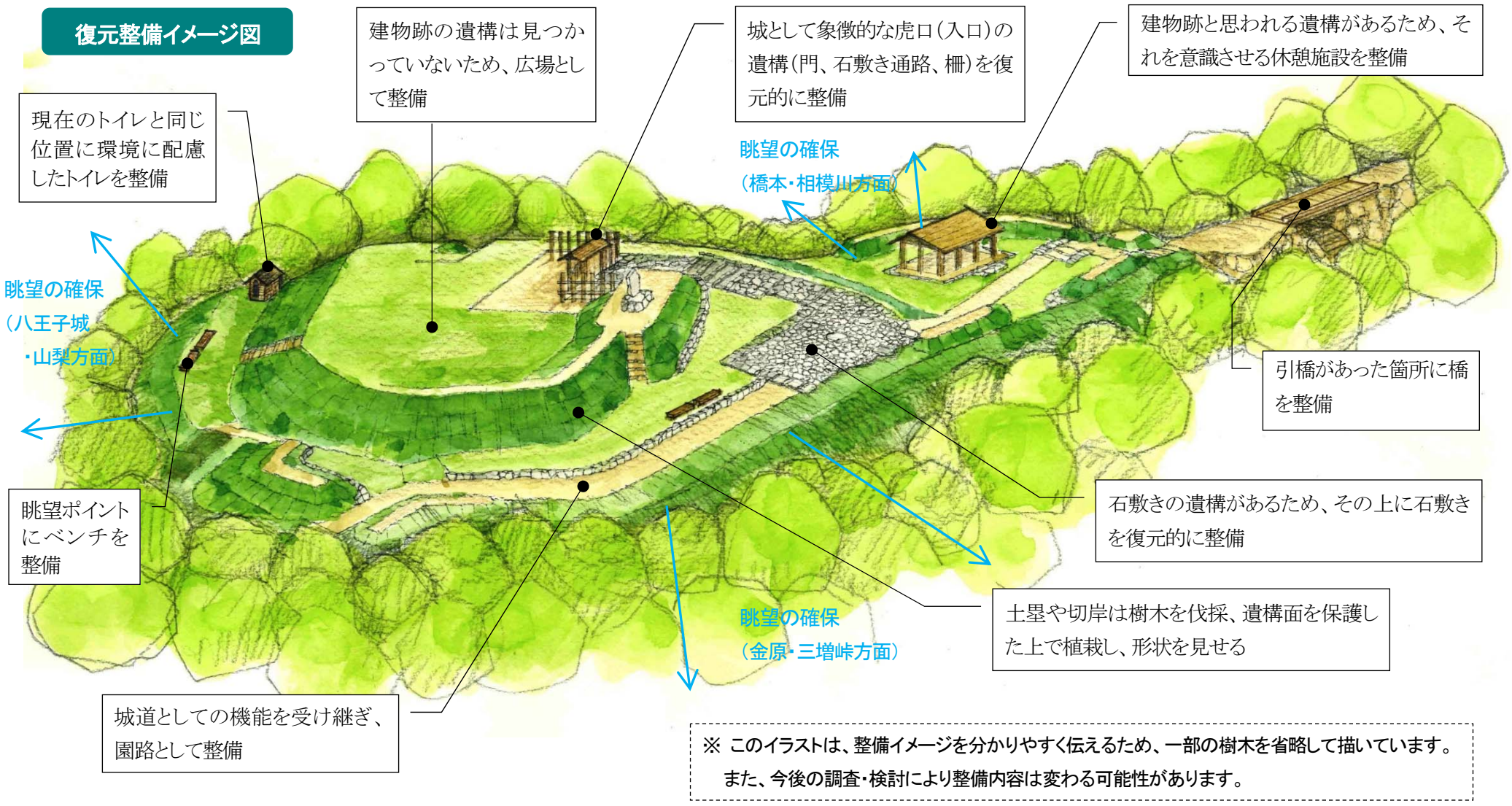
津久井城の遺構を守りつつ、山城として使われていた当時の城の地形・構造や周囲を見張る眺望機能を来訪者に分かりやすく伝えることを目指します。



	くるわ 曲輪	城の区画　尾根や傾斜地を削ったり盛り上げたりして作った平坦地
	こぐち 虎口	曲輪の出入口
→	しろみち 城道	通路として使われていた道
	どるい 土塁	土を幾層も突き固めたりしながら盛り上げた土手状の防御施設
	きりぎし 切岸	切立った斜面をさらに削り急峻にした場所
	たてぼり 竪堀	斜面に沿って縦方向に掘られた堀
	ほりきり 堀切	通路を遮断するようにＶ字型に掘られた堀
	ひきはし 引橋	敵に攻め込まれた際には壊したり引き込んだりした構造の橋
→	ちょうぼう 眺望	城や砦・狼煙台（のろし）、街道などを見渡せることが重要。

遺構の復元整備の考え方

- 城として使用されていた当時の遺構は原則、保存する。（必要に応じて保護盛土などの対策を行う）
- 象徴的な部分について、かつての姿（推測含む）を復元的に整備し、その他は土塁や曲輪の配置、城道ルートなどが分かるように整備する。
- 歴史や遺構の解説板のほか、ベンチ、トイレなど、公園としての利用に配慮した施設を設置する。



※ このイラストは、整備イメージを分かりやすく伝えるため、一部の樹木を省略して描いています。
また、今後の調査・検討により整備内容は変わる可能性があります。

樹木の伐採等の考え方

■ 遺構保護と城の地形

- 木の根による遺構の破壊を防止するため、また土塁（どるい）や曲輪（くるわ）などの城の地形を見せるため、支障となる樹木は基本的に伐採しますが、木陰の確保などを考慮し部分的に保全します。

■ 眺望

- 眺望ポイントでは、眺望を妨げている樹木の伐採や枝おろしを行い、眺望を確保します。

木の根と遺構の状況例

このリーフレットに関するお問合せは…
神奈川県厚木土木事務所津久井治水センター　工務課公園班　TEL.042-784-1111

平成 26 年 9 月 1 日作成